

---

日 時：平成30年1月21日(金) 10時00分～11時30分

---

場 所：湯梨浜町役場 講堂

---

出席者：戸羽委員長、山根委員、長委員、福井委員、三ツ田委員、福井委員、米増委員  
(事務局)

山田課長、洞ヶ瀬センター所長、岡本課長補佐、植田副主幹、佐々木主事、戸崎社会福祉士、  
米原生活支援コーディネーター、田中主任介護支援専門員、石坂主事

計 19 名

---

## 1 開 会

## 2 あいさつ

事務局：皆様には年末のお忙しいところ。お集まりいただき、ありがとうございます。これまで第2層を社協に委託して3地域、旧町村単位で活動していただいておりますので、今日はその報告と、予算の時期でもありますので、平成31年度に向けての協議をお願いしたい。天気予報によると年末年始、また寒波がくるようです。慌ただしい時期にはなりますが、慎重審議をよろしく願います。

委員長：みなさんおはようございます。早いもので、今年もあと10日ほどになります。前回8月に会議をしまして、今回2回目となります。来年度に向けての生活支援体制の話になるかと思う。第2層を社協に委託しているため、これからその社協の方で第2層として地区への関わりを推進していく必要がある。そのへんをどうやってやっていくか。人口も減り、高齢化もすごいスピードで進んでいく。社協の方でいまでもいろいろな活動をしているが、それに増して、必要なことをプラスしてやっていくこともあると思う。そのために、意見交換を皆さんでやっていきたい。来年度に向けて、事業の考え方や予算について、忌憚のない意見を願います。あまり固くならず、ざっくばらんにどんどん話ができる会にしていきたいので、よろしく願います。

## 3 協議事項

### (1) 第2層生活支援体制整備協議体会議報告

事務局：資料に基づき、説明。

委員長：小地域福祉ネットワーク研修会のワークショップは毎年行っているのか。

委 員：年に1回町内全体での開催は毎年行っている。3地域での開催は今年度が初めて。

委員長：3地域での研修会で行なったアンケート結果を見ると、大体似たような傾向が見られる。委員の皆様から思うことや聞いてみたいことはありますか。

委 員：羽合地域でのアンケート結果を見ると、あったらいいと思う活動について、ごみ出しや食事に関する支援を選ぶ人が1人もいない。他の地域では出ている。カフェの紹介について、東郷地区に新しくできたどれみやゆるりん館についてはTCCに出ている。泊支所でやっているカフェ活動については紹介はあまりしていないのではないか。

事務局：防災無線で周知はさせてもらっている。

委 員：参加者は決まっているのかもしれないが、せっかくやっている活動なので、もう少しいい知らせの方法はないだろうか。また、愛の輪協力員の制度について、愛の輪の制度自体を知らない人もいるが。

委員長：愛の輪協力員の活動として特定の人に対して手助けしたり、声かけしたりすることだと思っているが、そのあたりの内容を区の中で共有すべきか。

委 員：愛の輪協力員は区の方に、助けが必要な方がおられますかと投げかけて、対象者をピックアップして名

---

簿を提出してもらっている。区によっては対象者を区の中で話し合っていて決めているところもあるため、制度の周知ができていない区もあれば、毎年同じ名簿を出されることもある。愛の輪協力員自体も変わる場合もあるが、毎年同じ方が受けている場合が多く、活動内容がわかりにくいというご意見もある。この12月と1月が任期となっているため、2月か3月に研修をしたいと思っている。

委員長：誰が誰の協力員なのかという情報はみんなが知るべきなのか。

委員：愛の輪は本人と協力員の双方の了解を得て提出しているため、区長は知っているかもしれないが、周りの人はわからない状況。

委員：お互い同士は知っているが、隣の方は誰が見守っているのかは知らないということになる。

委員長：隣近所のことみんなでも共有した方がよさそうだが、中には知られなくない人もいるかもしれない。そのあたりの個人情報の扱いが難しい。

委員：誰が愛の輪協力員を担っているのかは知ってもよさそうだが、誰の支援をしているのかは知らなくてもよいのでは。協力員を受けようとする支援者は対象者だけでなく、だいたいみんなを見ている。

事務局：基本は1対1で成り立っている。橋津地区では誰が誰の支援者かということマップに落とし込み、「この人の愛の輪は誰かな」ということまで共有している。ただ、先ほど話にもあったように多くは、Aさんの愛の輪協力員が誰かということは把握できていないのが現状である。個人情報の問題は差し置いても、共有しておいた方がいいことの方が多いように思う。災害時等でも避難時の声かけや手助けを愛の輪協力員が行い、もし支援が必要であれば区の役員に協力を頼むといったような対応ができる。許すならば、共有はできていた方が望ましい。そして、協力員の横のつながりについては、今後研修会が予定されているということであったが、協力員の方が何をしたいのかわからない、他の人が何をしたいのかわからないという意見もあったので、研修会を通して情報交換をして、少しでも活動の参考になればよいと思う。

小地域ネットワーク研修会でも北栄町の事例発表の中で、愛の輪協力員の意見交換の場があるとのことであった。協力員の方が何をしたいのかわからない、地区によって活動がまちまちという現状があり、対象者の方の同意を得た上で意見交換や情報共有を図られていた。泊地域ではそれを聞いて、すごくいいという感想も出ていた。そういった場があることで、協力員の活動の統一や活発化につながるのではないかと思った。

委員：愛の輪協力員の会合をやっているところはあるのか。

委員：あったかハートおたがいさま事業を3年間実施した橋津地区では事業が終わってからも独自でやっている。長瀬東部でも独自でしている。

事務局：事業を3年間実施することで、きっかけ作りができ、それ以降も継続して、区の実践として独自に行っている。社会福祉大会でも2地区の発表をしていただいたが、よい取り組みだった。事業の成果も出ているように感じた。

委員：愛の輪の制度として、入所して自宅にいない人でも名簿にずっと名前があがっていたり、協力員の方が支援が必要な状況になったりしている場合もある。更新もきちんと行ってもらう必要がある。区の役員についても1年で変わってしまったり、引き継ぎがきちんとできていなかったりする現状もある。

事務局：名簿の更新等お願いはしているが、なかなか…

委員長：愛の輪の名簿は4月か5月頃出している。区長から民生委員に相談し、名簿を更新する手順となっている。変更があれば、話をして対応している。区の中でそのあたりのつながりが維持できていれば、区長は1年で変わり、民生委員も3年で変わってしまう。高齢者の状況は民生委員がだいたい把握している。

委員：自分は民生委員をしているが、区長から相談されたことはない。

事務局：民生委員の方にも案内を出してはどうか。いまは区長宛てにしか案内を出していないが、民生委員宛てにも「区長から連絡があるかもしれませんので、お願いします」という形で案内を出せば、お互い話し合いがしやすくなるのではないかと。小さな区では民生委員も複数の区で掛け持ちなので、難しい面もあるかもしれないが、そういう方法もあるのでは。

委員：掛け持ちしていると、地域の状況もわかりにくい部分があると思う。

委員長：そのへんについては、区長会も含め、社協の方で調整してもらいたい。アンケートも含め、これまでの報告で、気が付いたことはないか。

委員：理想と現実が乖離している。一部の人が関心をもっていても、大多数の人は無関心だったりする。無理矢理進めるわけにもいかない。自分の地区でも年に3回避難訓練を実施しているが、出る人は決まっている。やるべきことはやらないと、とは思いますが来れない方はどうなんだろうと思う。そこが難しい。

委員長：福祉の面に限らず、何をするにしてもその問題は出てくる。

事務局：小地域の研修会でアンケートを実施しているが、この会は福祉の関係の参加者が多いので、これ以外の方がどんな意識をもっているのか。

委員：同じ集落の中でも、昔から住んでいる人たちと、新しく団地ができた区域もあるので、意識の違いはあると思う。新しい地区から見ると「関係ないわ」と感じられる部分も多いと思う。そのへんが難しいところではある。

委員長：地区の中だけでなく、いろんな団体の中でもそういうことはある。どうやってまとめていくのが問題。

委員：団地の中には区長が誰か知らない人もいたりする。地区のことにはあまり関わりがなくても、学校の保護者会等には関わっている場合もあるので、そこを活用すれば引き込めるかな、とも思う。

委員長：学校関係でも、保護者の関心をどうやって子どもに向けさせるかという問題はある。昔は保護者は積極的にPTA等いろんな会に出て話し合っていたが、近ごろはそうではない。保護者も出てこない人は本当に出てこない。PTAがいらないのではないかと極論の意見もあるようだ。都会的な考えであるようだ。なんでもかんでもそういう風になってはいけない。そのために、こうして生活支援を考えないといけないようになっていく。前に進まないといけない。

委員：アンケートで「地域で支え合いをしていくために、興味・関心のあることはなんですか」と尋ねている項目があるが、その回答についての対応はこれからどうしていくのか。アンケート結果を出して、その次に具体的にどうしていくのが難しいと思う。地域ごとに特色もある。ボランティアの無償と有償はどういった違いがあるのか。

事務局：有償は例えば社協がしている「助さん」がある。30分500円で草取りや雪かき等の困りごとに対して登録制度でボランティア支援をしている。無償は一般的にやっている無報酬の活動になる。

委員：無償で動かれるような方がおられるのか。

事務局：代表的なものが社協でやっている配食ボランティアがある。地域の中でやっている活動もあるとは思いますが細かいものまで把握していない。また、福祉施設にボランティアで行かれる活動も無償ボランティアに入るのでは。町としても助け合い体験ゲームを通じて助け合いの気付きや啓発を行ったり、集いの場として短期集中ゆりりんサロンを実施し、これまでに6地区実施している。週1回3か月間で12回を職員が関わりながら開催している。終了後は補助金も活用しながら継続してやっていただき、集いの場の拡大を図っている。アンケートとしてはその辺の関心の高さが見られるが、町としてもそういった事業で働きかけている。町内75地区あるため、なかなか一朝一夕にはできないところがある。(助け合い体験ゲームのカードの見本を回覧し

ながら)こんなことに困っていると、困りごとが書かれたカードを提示し、これだったら手伝ってあげられるよという方がカードをもらうという風にゲーム形式でお互いに助け合えるが体験できるもの。

委員：このゲームは何箇所くらい回って実施しているのか。

事務局：約8か所実施。サロン等で集まっている場でやらせていただくが、サロンの依頼があってもこういった内容でお願いしたいと依頼されることもあるため、毎回実施することが難しい。また、高齢の方が多く集まりとなると、「自分のこともやっとなのに、人の助けなんかできん」という声も多く、いろんな世代が集まる場の方がより効果的に行える面もあるかなと反省もしながら進めているところではある。

委員長：例えばシルバー人材センターへの依頼で高齢者の家庭への支援を希望される場合、依頼者は直接高齢者が依頼されるのか。

委員：最近多いのが、1人暮らし高齢者がこれまで自分でしていたことができなくなったことで依頼される場合。例えば障子張りや庭の草取り、田んぼの草刈り等をしてほしいという依頼が増えた。防草シートを張ってほしいという依頼も最近増えてきている。

委員長：そういった依頼は、高齢者が直接行っているのか。

委員：ほとんど自分で依頼されているが、まれに同居でない娘や息子から依頼がある場合もある。また、本人は施設入所して、空き家になった家に対しても庭木の剪定等の依頼もある。

委員：畑をトラクターでうってくれという相談もあるか。

委員：あるが、断ることもある。会員が自分が所持している機械を使って行うため、会員ができることできないことが出てきてしまう。全部が全部受けられる依頼ばかりではない。

委員長：アンケートやグループワークで出てきた要望について、第2層のなかでどうやって対応をしていくのかを考えていく必要がある。

## (2) 今後の事業展開について

事務局：資料に基づき、説明。

委員長：一番理想的なのは各集落が第3層として活動し、下からの意見を上に集約していく形だとは思う。来年度に向けて、長寿福祉課の事務局と社協とで詰めていく必要があるとは思いますが、現時点ではモデル的に泊、羽合、東郷で1地区ずつあったかハートお互いさま事業のような形で取り組んでいくことがよいのではないかと。

事務局：町なり、社協なりが仕掛けていく必要がある。下からニーズが上がってくるのが理想の形。地域の課題を地域で話し合っ、自分達で解決できることもあるだろうし、町や社協にお願いして、制度として整備していくことが必要な課題も上がってくることもある。こちら側が町民のためによかれと思ってしたことでも、実は思いと違っていたということも過去にはあったと思う。切実な困りごとが下から上に上がってきて声になってくるとよい。買い物支援にしても移動支援にしても、現状は乗り合いバスの支援はあるが、「本当はもうちょっとこうしてほしい」という意見が吸い上げ切れていないだけで、あるのかもしれない。その辺ができるような体制作りを進めていく必要がある。あったかハートの事業で3年間取り組んだ3地区はそういった意識も高く、助け合い活動もできており、さらに継続されていることから、この事業は非常に有効的な手段だと思う。ただ、受けていただく地区を探すのも難しいところではある。先ほど説明があったように、職員が関わりながら、夜会を開いたり、マップ作成をしたりと手間はかかる。地域の方のためにということで、手をあげていただける地区があればとは思っている。

委員長：27年度から3年間事業を実施したのは、橋津、長瀬東部、松崎地区ということだったが、いま実際に地域の中で見守りや支え合いの活動のために具体的に会が立ち上げられているのか。

委員：橋津地区にはもともと自治会の中に福祉部があり、その集まりを活用して行われている。長瀬東部は集落内が30軒程度で数もそこまで大きくないため、集まりやすさがあった。

委員長：あまり形を決めすぎず、でもモデル的に事業をやっていく必要があるか。

事務局：1層が町全体、2層が旧町村単位ということでやっているが、本来はもう少し小さい集落単位で動かないと、大きくくりでやっても他の区との絡みもあるため、区の実情が反映されにくい。集落内であれば、区の事業や状況が把握しやすい。集落単位を第3層として活動ができれば。協議体という位置づけではなく、区で見守りをするためにはどうしたらよいかを考えるきっかけ作りとしてこういった事業ができればと思っている。

委員：この事業は3年間で期間限定で地区限定でできるかもしれないが、それを受けて実践段階にもっていき、維持管理や主体を意識していかないと、継続は難しいと思う。実施した3地区ではたまたまそういった母体があったから活動できているようだが、全く素地がないところに駆け込んでそれを継続的にしていったら、それを地域の中のどういう組織の中に組み込んでいくのか、想定していかないと。事業としてやってもその後、立ち消えになる可能性もある。だから、そういうところを意識してどういう仕組みがいいのか議論をしていく必要がある。

委員：基本的に社会福祉協議会の方で助成金を出して各集落に保健福祉会をもっている。その母体を活用して進めていくのがいいかとは思っている。

委員：事業終了後も実施地区では活動しているのか。

委員：長瀬東部と橋津地区では継続して活動できている。事業では年4回集まって会議をしていたが、やりながら年4回開催してもそれほど変化がなく、その後は年2回の開催で実施している。

委員長：本来は第3層的なきちとした会議でなくても、保健福祉会で区長や民生委員や区の役員や高齢者クラブ等の団体や子ども会やサロンの関係者等も入ってくるため、新たに会を作るよりも、いまある会を活用して進めていったらよいように思う。

委員：新組織となるといろいろ大変となる。あるものを活用していくのがよい。

委員長：地区の中でも高齢者が集まって井戸端会議をしている様子が見受けられる。歩いていると呼び止められているんな話を聞く。そういったことはサロンにも通じているため、意見を吸い上げていければいいと思う。いまあるものでできるやり方を考えていくほうがよい。もう少し、社協と事務局で詰めていく必要がある。

委員：仕組みを作るのは難しい、地域見守り会議等の第3層でニーズが発揮できて、なおかつニーズを出せる雰囲気があれば、ある意味成功だと思う。要望があればやらないといけない。地区にせつかく自治会があるため、そのメンバーだけでもしっかり話をして、その区で自立してなにかをしなないといけないという雰囲気作りも含めてしないといけない。1年で役員が変わってしまうため、難しいという問題は当然あるが、それを乗り越えてやっていかないと、地域なんて上手くやってけるはずはない。そこを挑戦してやっていかないといけない。いろんな団体があるが、あれもこれもではなく、抑えるところを抑えてやっていかないといけない。

委員長：人的なものも今度必要となってくる。社協の中に地区にアプローチできる人的なものも必要。地区に話をもっていくコーディネーターが重要である。

事務局：社協の職員はそれぞれスキルもあり、マップ作りも関わっており、ノウハウはみんなもっている。

委員長：地区の人はやっぱりなにをどうしていいかわからない面も多い。職員が関わりながら、そのへんを支援していく必要がある。

事務局：社協ともう少し話をつめていく必要はあるが、こういった方向で取り組みたいと考えている。

委員長：来年度の予算についてはどういった方向なのか。

事務局：予算は第1層のコーディネーターの賃金と第2層として社協への委託料があり、このモデル事業としての取組みも実施するのであれば、委託料に組み入れていく予定である。2層のコーディネーターの給料部分も委託料に含んでいる。兼務であるため、1人役にはならないが、組み入れている。また、小地域ネットワーク研修会の費用等積み上げてもらった分も要求している。

委員長：この会は年度内にまた開催の予定があるか。

事務局：もう1回開催予定である。その頃には来年度予算も具体的な話ができると思う。

委員長：事業内容についても長寿福祉課と社協で協議して詰めてもらえればと思う。

委員：モデル事業については地区で取組みにくいように感じる。区長が忙しすぎる現状があるため、新たに事業を受けると、区長の負担が大きくなってしまう。補助金が絡むことだと会計も必要になってくる。そういったことも考慮して取組みやすい形になるよう工夫をお願いしたい。新興団地と古い地区が一緒になっている集落だと余計に難しい。

委員：どこの地区でも環境によって温度差がある。

委員長：区長も負担が大きく、なり手がいない状況もある。地区の中で役割分担したり、協力したりしてやっていくことが一番大事。

委員：区で考えていけないといけない大事なことではある。

委員長：いろんな意見ももらいましたので、それも踏まえて、また次回の3月にどういう形でやっていくかを具体的に話していければと思う。また会議の出席をよろしくお願いします。

#### 4 閉 会